

ロシアのウクライナへの軍事侵攻、即刻停止、撤退を求めろ！

## ウクライナに平和を！

本会理事長 魚住道郎



ロシアのプーチン大統領は特別な軍事作戦と称し、2月24日ウクライナに大規模な軍事侵攻を開始した。核兵器の使用もちらつかせ、力でねじ伏せる勢いで、北部、東部、南部から一斉に侵攻すると、軍事施設以外の民間人や病院や学校などは標的にしないと断言してはいたものの、実際には避難している子どもや婦人にも銃口が向けられ、またミサイルが撃ち込まれ、すでに約2か月に及ぶ戦闘で何万に達するであろう多数の犠牲者が出ている。日本を含めた西側諸国は、この侵攻が第3次世界大戦の引き金になることを恐れ、直接参戦することを避け、経済制裁で対抗、ロシアからの企業の撤退、資産凍結などで、締め付けを図っているが、あまり効果は出ていないようだ。中国にロシアは武器の援助を求めているが、中国から武器援助が実行される事態になると、停戦は遠ざかり、多数の民間人を含んだ犠牲者が出て、ウクライナはロシアに占領される可能性が出てくる。ウクライナのゼレンスキー大統領は日本を含め、西側諸国の国会、国連の場で救援の演説をし、支持を求めている。ロシアの武力攻撃を止める停戦協議が一刻も早く合意できる日を願う。

### 有機農業の真価を発揮するとき

今回のロシアの軍事侵攻により、世界の食料やエネルギーの調達に早くも影響が出ている。食料や飼料、エネルギーの海外依存度が高い日本はこれを機に、小麦の増産、飼料の自給をすすめ、食料自給率を上げ、薪や炭、バイオマス発電や水力発電、地熱、潮力発電、太陽光発電など自前の自然エネルギーの活用を急ぐべきだ。

福島第一原発の廃炉のめども立たないうちに、原発の再稼働、新規の小型原発の開発などあつてはならない。核保有の議論などはもつてのほかだ。また、化学肥料原体をほぼ100%海外に依存という危うい日本農業の基盤が露呈したいま、地域資源を活かした有機農業の力がいよいよ発揮されるべきだ。

今後ますます事態は長期化、深刻化する可能性がある。ウクライナ周辺国に避難した人びとは数十万、数百万ともいわれ、今後は日本にも多くの避難者がくるかと思われる。宗教や民族、国家の枠を越え、その違い、存在を認めあい、生物の多様性を重んじてきたわたしたち有機農業の思想の真価が発揮できるときである。自立と相互扶助の精神で、いま何が必要で、何ができるか、みなさんと知恵を出しあっていきましょう。

ウクライナに平和な日を早く取り戻さんことを祈って。